

わたしの桜大きくなあれ・桜の植樹

4月25日（土）、富士見湖パークにおいて、事前に申し込まれた町民500人が参加して、桜の木300本の記念植樹が行われました。

植樹には、水元中央小学校緑の少年団の皆さんがボランティアとして参加し、司会と進行を務めてくれました。開会式で中野町長が「今回の植樹で富士見湖一帯には、2千本近く桜が植えられ、将来は桜の名所となることでしょう。皆さまのご協力に感謝いたします」とあいさつを述べた後、緑の少年団の児童とともに記念植樹が行われました。植樹が始まると、参加者のみなさんは、家族の名前や子どもの名前、誕生記念や結婚記念などたくさんの思いが込められたプレートが植えられた桜に、いねいに付けていました。



わたしの桜、はやく大きくなあれ



△何年後か僕たちはここでお花見をします



4/24見事に咲いた鶴山地区の桜並木

4/15農工会でスペシャル展示作品展示

4/28フットリバー市訪問の体験発表をする鶴山高等学校3年成田平樹



あなたの地区の楽しい催しや出来事などを役場総務課まちづくり班までどしどしお知らせください。(☎22-2111 内線263)

津軽ぶどう協会が30周年を迎える

4月14日（火）、豊明館において、来賓および関係者200人が出席し、「津軽ぶどう協会創立30周年記念式典」が執り行われました。

式典では、平成20年度青森県ぶどう立木品評会の特賞に入選された成田英己さん（胡桃館支部）と須郷時勇さん（境支部）、技術賞の松江利治さん（瀬良沢支部）、優秀賞の藤田正夫さん（鶴泊支部）の表彰式が行われ、また、歴代会長の永田昭明さんと奈良孫四郎さん、指定市場6社、指定業者6社、協会功労者の佐藤啓一さん、それぞれに感謝状の贈呈が行われました。

成田義弘会長は、「ここ鶴田町を中心とした当協会は、会員の努力で、スチューベンの栽培面積、収穫量とも県内一になりました。これからも会員とともにより一層の努力をしてまいります」と式辞を述べられていました。

津軽ぶどう協会創立30周年記念



△式辞の中で、これまでの歩みを語る成田会長

春の火災予防運動・パレード査察実施

4月13日（月）～19日（日）までの1週間、春の火災予防運動が実施され、鶴田消防署と鶴田町消防団は、管内全域を消防車両で広報パレードを行い、町民に火災予防の呼びかけを行いました。

消防団本部（下山正彦団長）は、4月12日（日）に管内の各15分団に対してのパレード査察を行い消防設備と消防機械器具の点検を行いました。最初に田の尻分団11人が、服装、消防用水、機械器具、屯所内外の査察を受け「異常なし」で査察を終了しました。消防署および消防団では、年間を通して火災予防の巡回をし、町の火災発生防止に努めています。



火災のない鶴田町を目指して！ △緊張感がみなぎる分団員（田の尻分団）



△お巡りさんがいなくてもきちんと交通ルールを守ろうね。

交通ルールを守って安全な通学を

4月8日（水）～14日（火）までの1週間、鶴田駐在所、鶴田町交通安全協議会、交通安全母の会、各地区の団体により春の交通安全運動が展開され、児童の通学や下校による交通事故の防止や夕暮れの早めのライト点灯などを町民の方々に呼び掛けました。

8日の早朝には、各交差点で街頭啓発活動が行われ、初めて通学する新入生児童への交通安全指導が行われました。

この時期の子どもたち、特に新入生は交通ルールがまだ良く分かりません。大人たちが見守ってあげないと、飛び出しや車道に出てしまうなど危険なことをしがちです。わたしたち大人が注意し合い、まちの宝物である子どもたちを交通事故から守りましょう。

野鳥の森に巣箱掛け・水元中央小

5月8日（金）、水元中央小学校4年生と5年生34人が、緑の少年団活動の一環として、津軽富士見湖畔にある「野鳥の森」に巣箱掛けをしました。

巣箱掛けでは、笹森松三さん（津軽富士見湖の自然と野鳥を守る会会長）から、鳥が風邪を引かないように巣箱の入り口を風の入る北向きや西向きにしないことや巣箱を掛けたあとは自分たちで見に来たり、触ったりしないことなどの指導を受けた後、自分たちが作った巣箱をはしごに上がりながら上手に木々に掛けて回りました。

この活動は5月10日から始まる「愛鳥週間」に合わせて毎年行われており、今年で26年目を迎えます。

皆さんの巣箱に早く野鳥が来てくれるといいですね。



△ぼくの作った巣箱に野鳥は入るかな？